PLS200　国際政治学

2 年　1, 2 クォーター

担　当　教　員	横井　正信
授　業　形　態	講義
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ	該当しない
単　　位　　数	２
曜 日 ・ 時 限	火曜日・４時限

授業概要

日本とドイツはともに第二次世界大戦の敗戦国となった後、戦後の冷戦の中で再軍備や安全保障問題について困難な問題に直面した。他方、両国はともに戦後復興に成功して経済大国となり、国際社会における地位を再確立しただけではなく、特にドイツは今や EU の中心的存在となり、国際政治上も大きな役割を果たすようになっている。他方、1990 年代以降の国際政治の枠組みの大きな変化や経済のグローバル化は、両国の内政面にも大きな影響を及ぼし、今や外交と内政の連動性と相互的な影響は無視できないまでになっている。

本講義においては、第二次世界大戦後の日本とドイツにおいて、主要な政策課題となってきた諸問題をめぐる政治過程について学習することによって、両国の国際政治上の課題がどのように展開・変容してきたのかについての基本的知識の習得を目指す。また、ドイツと EU の例をヒントに、グローバル化の中での安全保障環境や経済関係の変化といった共通の課題を有する現在の日本の状況についても考え、それを通じて、各国・地域の特性と課題を多角的な視点から探求するための幅広い基礎的・専門的知識及び能力を獲得することを目指す。

到達目標

（１）第二次世界大戦後の冷戦とその終焉及び欧州統合の進展がドイツの内政・外交にどのような影響を及ぼしたかを理解するための基本的知識を修得することを目標とする。
（２）比較政治学的観点から、第二次世界大戦後の国際社会において日本が置かれてきた状況に関する基本的知識を修得し、その特徴や問題点に対する自分自身の考え方をまとめる。

期待される効果

（１）異なった国や地域の相互関係の特徴と課題を多角的な視点から探求するための幅広い基礎的・専門的知識及び能力を獲得できる。
（２）現代の国際政治に関する基本的分析枠組を学習し、国際政治の諸事象に対する理解を深めることができる。
（３）日本を含む東アジアにおける国際政治上の諸問題を理解するための基礎となる批判的かつ論理的思考力を養うことができる。

先修科目

国際地域概論

教科書・参考資料等

（１）渡邊啓貴編「ヨーロッパ国際関係史」有斐閣、2008 年
（２）五百旗頭真他「戦後日本外交史」有斐閣、2014 年
（３）H.A.ヴィンクラー「自由と統一への長い道」昭和堂、2008 年
（４）中村登志哉「ドイツの安全保障政策」一芸社、2011 年
（５）田中素香他「現代ヨーロッパ経済」有斐閣、2014 年
（６）遠藤乾「ヨーロッパ統合史」名古屋大学出版会、2008 年
（７）羽場久美子「ヨーロッパの分断と統合」中央公論新社、2016 年
（８）原彬久「日米関係の構図」日本放送出版協会、1991 年
（９）田中明彦「安全保障」読売新聞社、1997 年
（１０）外岡秀俊「日米同盟半世紀」朝日新聞社、2001 年
（１１）波多野澄雄「日本の外交 第 2 巻」岩波書店、2013 年

（１２）土山實男「安全保障の国際政治学」有斐閣、2014 年
（１３）渡辺尚編「孤立と統合　日独戦後史の分岐点」京都大学学術出版会、2006 年

授業の方法

この授業は講義形式で行う。講義は基本的に教科書に沿って進めるが、より幅広い問題も扱うため、その際には別途印刷資料等を配布する。参考書として記載している諸文献において取り上げられている諸問題についても解説するため、学生は教科書だけではなく、参考書も読了しておくことが望ましい。さらに、多角的な教材によって理解を深めるため、可能な範囲で授業に関連したビデオ教材等も併用する。

成績評価

成績評価は記述式の期末試験を中心に行うが、学生は、指示があった場合には授業で学習した内容を１ページ程度のレスポンス・ペーパーにまとめ、次回授業の冒頭に提出する。また、授業のなかで、レスポンス・ペーパーについての質疑応答を行う。

成績

10%　レスポンス・ペーパー
10%　授業中の質疑応答の状況
80%　期末試験

授業スケジュール

第１回：オリエンテーション、第二次世界大戦とアメリカの戦争目的
授業全体についてのオリエンテーションとともに、ヨーロッパの歴史においてドイツが占めてきた独特の位置と、さらに戦後に大きな影響を及ぼしたアメリカの戦争目的について学習する。

第２回：第二次世界大戦後の日本とドイツの占領管理体制
第二次世界戦における敗戦後、日本とドイツにおいて実施された占領管理体制の特徴を整理し、その共通点と相違点について学習する。

第３回：冷戦の開始と日本及びドイツへの影響
冷冷戦の開始がドイツの再建に及ぼした影響と東西ドイツの分裂に至る経緯を学習するとともに、サンフランシスコ平和条約締結前後の日本の置かれた状況とも比較する。

第４回：日本とドイツにおける安全保障体制の構築
1950 年代から 1960 年代にかけての西ドイツにおける民主的政治体制の安定化と安全保障体制の確立を概観し、日米安保条約を基礎とした日本の安全保障体制の構築との比較を行う。

第５回：欧州統合の進展と日本の高度経済成長
欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)の形成から欧州経済共同体(EEC)、欧州共同体(EC)へと至る 1960 年代までの欧州統合の進展の軌跡をたどり、日本の高度経済成長期との比較を行う。

第６回：多極化と緊張緩和期の安全保障政策環境の変化
1960 年代後半から 1970 年代前半に進行したいわゆる「多極化」と東西緊張緩和の時期に日本と西ドイツをとりまく国際政治状況にどのような変化が生じたかについて学習し、併せてこの時期の両国の安全保障政策への影響についても考える。

第７回：多極化と緊張緩和期の経済政策環境の変化
多極化と緊張緩和、特に前者が日本と西ドイツ経済及び欧州統合の進展にどのような影響と変化をもたらしたについて学習し、安全保障政策面との関連性についても検討する。

第８回：緊張緩和から新冷戦へ
1970 年代後半から 1980 年代前半のいわゆる「新冷戦期」、特に「レーガン軍拡期」に見られた東西関係の緊張の高まりが日本とドイツの外交政策に与えた影響について、両国の置かれた状況を比較しながら考える。

第９回：東欧社会主義体制の崩壊と冷戦の終焉
1980 年代後半以降新冷戦のもとでの緊張が急速に緩和し、終焉に至った背景について考察するとともに、冷戦の終焉が日本とドイツの政策環境にどのような影響を及ぼしたかについて考察する。

第１０回：国際政治から見たドイツ統一

冷戦の終焉と同時に実現した 1990 年のドイツ統一の政治過程がどのようなものであったかを跡づけ、ドイツ統一が欧州の国際政治にとってどのような意味を持ったかについて考える。

第１１回：冷戦終焉後の日米安保体制の「再定義」

冷戦終焉後の国際政治状況の大きな変化のなかで生じた「日米安保再定義」をめぐる議論を概観し、日本が安全保障政策面で新たに求められるようになった役割とその問題点について検討する。

第１２回：冷戦終焉後の欧州における安全保障体制の変容

冷戦終焉後の北大西洋条約機構(NATO)の存在意義及び NATO の一員としてのドイツの新たな役割をめぐる議論について学習し、この時期の日本における「日米安保再定義」に関する議論との比較を行う。

第１３回：ドイツにおける「産業立地問題」と日本経済の停滞

欧州連合(EU)の発足や通貨統合の開始へと進んだ欧州統合の深化や世界的な経済のグローバル化が統一後のドイツにもたらした「産業立地問題」について学習し、バブル経済崩壊以降の日本の経済的停滞との比較も行う。

第１４回：統一ドイツの政治的経済的役割の拡大

2000 年代に入って経済的停滞を克服し、EU の中で政治的経済的比重を拡大させたドイツがヨーロッパの国際政治にどのような変化をもたらす可能性があるかについて検討し、日本の現状との類似点と相違点について検討する。

第１５回：国際社会の中のドイツと日本：授業全体のまとめ

授業で取り上げた諸問題を再整理し、現在の欧州及び国際社会の中でのドイツの置かれた状況と立場、また、それと比較した場合の日本の状況と立場について、学生各自の考えをまとめる。

第１６回：期末試験

事前・事後学習

授業前には教科書・参考書の中の授業で取り上げる箇所を熟読し、疑問点を整理して、授業時に教員に対して質問できるようにしておくこと。また、レスポンス・ペーパーの作成を指示された場合には、次回授業冒頭に提出できるように準備しておくこと。さらに、レスポンス・ペーパーの内容について教員から質問された場合に答えられるようにしておくこと。